

オンコロジーセンター

1. スタッフ

センター長（兼）教授 土岐 祐一郎

その他、病院教授 1 名、講師 1 名、助教 7 名、看護師長 1 名、看護師 3 名、薬剤師 1 名、医療ソーシャルワーカー 2 名、事務補佐員 1 名

（兼任を含む。また、助教は特任を含む。）

（令和 2 年 4 月 1 日より

センター長（兼）教授 江口 英利）

2. 設立の経緯及び組織構成

日本のがん治療では、手術療法の進歩・普及に比べて薬物療法、放射線療法及び緩和医療が質・量ともに非常に立ち遅れており、そして、そのことが日本のがん治療の成績の向上を妨げる一要因となっていた。そこで、がんの薬物療法、放射線療法、緩和医療の質的・量的向上を目的として、本院におけるがん診療に関係する諸部門を統括し効率のよい管理運営を実施するために、「化学療法部門」、「緩和医療部門」、「放射線治療部門」の 3 部門より構成される当センターを平成 20 年 4 月 1 日に開設した。当センターは、本院のがん診療レベルの向上並びにがんプロフェッショナル養成プランとの協力の下、がん診療の専門職の育成にも多大な貢献を果たしてきている。平成 27 年度にはがん診療の更なる充実を図るために、新規にオンコロジーセンター棟が設立されている。令和元年度からはオンコロジーセンターは、新たに化学療法部門、緩和医療部門、小児医療部門、がん相談部門から構成されることとなった。

【オンコロジーセンター棟】

1 階：診察室（6 診）、採血・検査室

2 階：化学療法室 1（21 床）

3 階：化学療法室 2（21 床）

4 階：がん相談支援センター、AYA ルーム、
遺伝カウンセリング室、薬剤部

5 階：キャンサーボードホール、がんゲノム医療センター/クリニカルシーケンスラボラトリーズ（平成 29 年度設置）

3. 化学療法部門

令和元年度の化学療法室の年間利用者数は 12,801 件、1 日平均 52.9 人の利用となっている。なお、オンコロジーセンター棟での診察件数は 4,291 件、採血件数 7,254 件である。詳細は化学療法部の項を参照のこと。

4. 緩和医療部門

詳細は緩和医療センターの項を参照のこと。

5. 小児部門

本院は、令和元年度から大阪府指定の小児がん拠点病院、国指定の小児がん連携病院に指定されることとなり、小児部門があらたにオンコロジーセンターの一部門として参画することとなった。

主要疾患患者数：白血病・悪性リンパ腫 72 名、固形腫瘍 89 名、脳腫瘍 6 名、先天性免疫不全症 12 名、再生不良性貧血 1 名、組織球症 9 名、その他 10 名（年間延べ入院人数）。常時 15 - 20 人の小児血液・悪性腫瘍疾患患者の入院管理を行っている。

令和元年新規発症は、血液疾患 8 名固形腫瘍 18 名であり、内訳は ALL2 名、悪性リンパ腫 2 名、LCH3 名、溶血性貧血 1 名、神経芽腫 6 名（経過観察例も含む）骨肉腫 3 名、横紋筋肉腫 2 名、脳腫瘍 2 名、網膜芽腫 2 名、肝芽腫 1 名（再発後紹介）、ウィルムス腫瘍 1 名となっている。造血幹細胞移植施行例は合計 7 例で、血縁者間骨髄 2 例、非血縁者間骨髄 1 例、臍帯血 2 例、自家 2 例であった。この他、適応となる患者に対して CAR-T 療法の検討を行っている。

外来診療としては、血液・免疫・悪性腫瘍専門外来（3 回/週）、長期フォローアップ外来（1 回/週）を行っている。

6. がん情報部門（がん相談）

平成 19 年 7 月より保健医療福祉ネットワーク部と共に、一般の市民を対象としたがん相談を開始した。平成 21 年 4 月から専従の MSW を配置し、電話相談を開始、平成 22 年 3 月からはオンコロジーセンター師長、MSW を中心に保健学科教員の協力も得て面談での相談も開始した。がん相談件数は平成 27 年度：723 件、平成 28 年度：725 件、平成 29 年度：1,051 件、平成 30 年度：1,275 件、令和元年度：1,212 件であり、令和元年度の相談の内訳は、面談 842 件、電話 367 件、FAX/メール/その他 3 件で、相談者の内訳は院内 923 件、院外 230 件、受診機関なし及びその他 59 件であった。相談の内容は、がん治療、不安・精神的苦痛、症状・副作用・後遺症に関する内容が主である。また平成 23 年 12 月より、病院 3 階のワクチンブースエリアにおいて、がん情報の提供を行う「がん情報提供コーナー」を設けていたが（平成 26 年度利用者数 255 人）、平成 27 年 9 月にオンコロジーセンター棟設立とともに、同 4 階に患者交流サロンを開設し、常時、情報提供を行うことを可能とした。令和元年度の利用者数は 1,782 人である。平成 26 年度から、がん患者サロンを開始し、令和元年度は「阪大がんサロン（おしゃべり会）」を月 1 回定期開催するとともに、追加での開催として「メーキャップ講習会」、「AYA 世

代のがん みんなで考えよう」、「治療と仕事の両立支援」、「がんの親を持つ子どものケア」、「自宅での療養を支える在宅医と訪問看護」のテーマでの開催も行った。その他、ウィッグ展示相談会を毎週水曜日に定期開催し、ピアサポート支援として、院内婦人科がん患者会「ソレイユ」の活動支援、ヨーガ・つぼ療法教室などの活動の支援を行っている。

＊就労、治療と仕事の両立支援：平成 29 年 10 月に大阪府社会保険労務士会と「ホットライン事業実施協定」を締結、社会保険労務士と連携した「治療と就労の両立支援」を開始し、令和元年度は 10 件でホットラインを利用して相談対応するとともに、全 118 件の就労、治療と仕事の両立支援の相談に対応している。

＊AYA 世代支援：大阪府のがん対策貢献事業補助金の支援の下、小児・AYA 世代のがん患者支援活動として、令和 2 年 1 月 18 日（土）に、「AYA 世代のがん患者を支援する医療従事者向け講演会～みんなで考えよう AYA 世代のがん～」を開催した。本講演会には、大阪府下の医療従事者やがん患者及び家族を含め、66 名が参加し、今後の AYA 世代のピアサポートのあり方について検討を行う機会となった。

7. 他部門との協力活動

(1) 「がん診療」市民公開フォーラム

各診療科の協力の下に、一般市民を対象としたがん診療について市民公開講座を行っている。今年度は緩和医療センター開設を記念して、緩和医療についての市民公開フォーラムを開催した。

・令和 2 年 2 月 8 日

「あなたの治療と“思い”を支える緩和ケア」

(2) 院内がん登録

平成 19 年 1 月より、医療情報部がん登録室が一括して院内がん登録を行っている。本院に受診した新規がん患者全例が登録対象であり、平成 29 年：3,391 名（入院・外来）、平成 30 年：3,566 名（入院・外来）が登録されている（「XI 補足資料編の表を参照のこと）。これらのがん登録の情報は、大阪府の地域がん登録に情報提供されている。

(3) キャンサーボード

院内で診断・治療に困った例について関係する医療者に集まってもらい検討を行うこととともに、化学療法・緩和ケア・放射線治療の複数のグループが関与した例を教育的に討論することを目的とした形で、月 1 回のキャンサーボード開催を平成 20 年 5 月より開始した。参加者は、関連する診療科医師及びメディカルスタッフ、病理医、当センタースタッフ、がんプロフェッショナルコース大学院生で

あるが、その他に希望者も参加可能である。

（令和元年度キャンサーボード 検討症例）

- ・第 119 回（4 月 19 日）abscopal effect の光と影
- ・第 120 回（5 月 21 日）メラノーマの手術後、術後補助でオプジーボ投与後に、全身リンパ節腫大＋自己免疫性溶血性貧血を認めた例
- ・第 121 回（6 月 28 日）悪性リンパ腫治療後の二次発癌、胸膜中皮腫例
- ・第 122 回（7 月 26 日）緩和ケアとがん疼痛のマネジメント
- ・第 123 回（9 月 20 日）メラノーマの脳転移に放射線治療を行った 1 例
- ・第 124 回（10 月 16 日）原発不明の転移性脳腫瘍例
- ・第 125 回（11 月 15 日）オピオイド製剤についてまとめてみた！
- ・第 126 回（12 月 20 日）放射線治療と免疫チェックポイント阻害剤の併用－アブスコパル効果について
- ・第 127 回（1 月 17 日）肺がんに対して免疫チェックポイント阻害剤投与後、特異な病態「リポイド肺炎」を生じた例
- ・第 128 回（2 月 21 日）せん妄について その対応と薬剤との関係